

# 米の需給状況について

令和8年3月17日  
福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

令和8年産主食用米の生産数量の目安（面積）を、令和7年産の生産実績と同じ67,000 ha（備蓄米作付面積6,300 haを含む）に設定しました。

生産数量（面積）の目安に沿った生産を実践し、主食用米の需給バランスを保ちながら、食品産業から需要のある加工用米や麦、大豆等の畑作物、収益性の高い園芸作物への作付転換のほか、今後買入れが行われる備蓄米への取組を検討するなど、需要に応じた生産を引き続き実践しましょう。

## 1 令和8年産主食用米の生産数量の目安について

令和8年産の主食用米の生産数量（面積）の目安については、生産基盤の状況等から、米の生産量を維持するため、現状の生産面積を維持する必要があるとともに、国が公表した「米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針」における生産量の見通しや本県産米における需要量シェア等を考慮し、令和7年産の作付実績と同じ67,000 ha（備蓄米6,300haを含む）と設定しました。

なお、備蓄米については、今後の動向を見ながら対応する必要があるため、主食用米の目安の内数としています。

用途	令和7年産実績	令和8年産目安	前年差
主食用米	67,000 ha	67,000 ha	
備蓄米	0 ha	（備蓄米6,300 ha含む）	0 ha

## 2 水田における作付意向（1月末時点）

令和8年3月11日、国は1月末時点における令和8年産米の作付意向を公表しました。全国的には主食用米の面積がわずかに減少しているものの、概ね前年並みの見通しとなっています。

また、平均単収で生産量を試算すると732万トンとなり、政府が公表した需要見通し711万トンを21万トン上回っています。

本県においては、主食用米の面積が減少する傾向となっています。これは、政府による備蓄米の買入れが、令和7年産では中止となったものの、令和8年産からは買入れが再開されることから、主食用米からの備蓄米への移行が進んだことなどが考えられます。

○本県の水田における戦略作物等の作付意向（1月末時点）単位：千ha

	主食用米	備蓄米	加工用米	新市場 開拓用米	飼料用米	WCS用稲	麦	大豆
令和8年産	65.9	1.4	0.8	0.1	1.4	0.9	0.4	0.8
令和7年産	67.0	0	0.9	0.1	1.4	0.9	0.4	0.8
対前年差	▲1.1	+1.4	▲0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

なお、今回の意向調査は、生産者の意向を集約したものではなく、地域農業再生協議会（市町村等）による見通しの集計値であり、今後、変動が見込まれます。